

60代女性、約30年の 完全寛解期間を経て再発・増悪し、 入院を希望せず生活ニーズに合った 治療を求めてリスティーゴ®を 経口治療の次の一手として 導入した例（g-EOMG）

※リスティーゴ®の効能又は効果：
全身型重症筋無力症（ステロイド剤又はステロイド剤以外の免疫抑制剤が十分に奏効しない場合に限り）

JP-RZ-2600068/2026年3月作成

 Inspired by patients.
Driven by science.

「警告・禁忌を含む注意事項等情報」等はDI頁をご参照ください。

本症例は臨床症例の一部を紹介したもので、すべての症例が同様な結果を示すわけではありません。

ユーシービージャパン株式会社

60代女性、約30年の完全寛解期間を経て再発・増悪し、入院を希望せず生活ニーズに合った治療を求めてリスティーゴ®を経口治療の次の一手として導入した例（g-EOMG）

【症例提供・スライド監修】順天堂大学医学部附属順天堂医院 脳神経内科 星野泰延先生



MGFA（最重症時） Class IIb

職業 介護職（フルタイム勤務）

臨床病型 g-EOMG

その他生活上の特記事項

介護を要する母（現在は施設入所）と同居しているため、入院は避けたい

発症年齢・罹病期間 20歳代、約30年

患者さんの主な訴え

- 首が下がって歩きづらい
- MG以外の疾患を心配
- 体動時の疲れ

症状

- 眼瞼下垂
- 歩行障害
- 易疲労感

最重症時スコア

- MG-ADL score : 3

既往歴・合併症

- 特記事項なし

その他の特記事項

- 経口剤服用時のAChR抗体価は最大620nmol/L

病歴

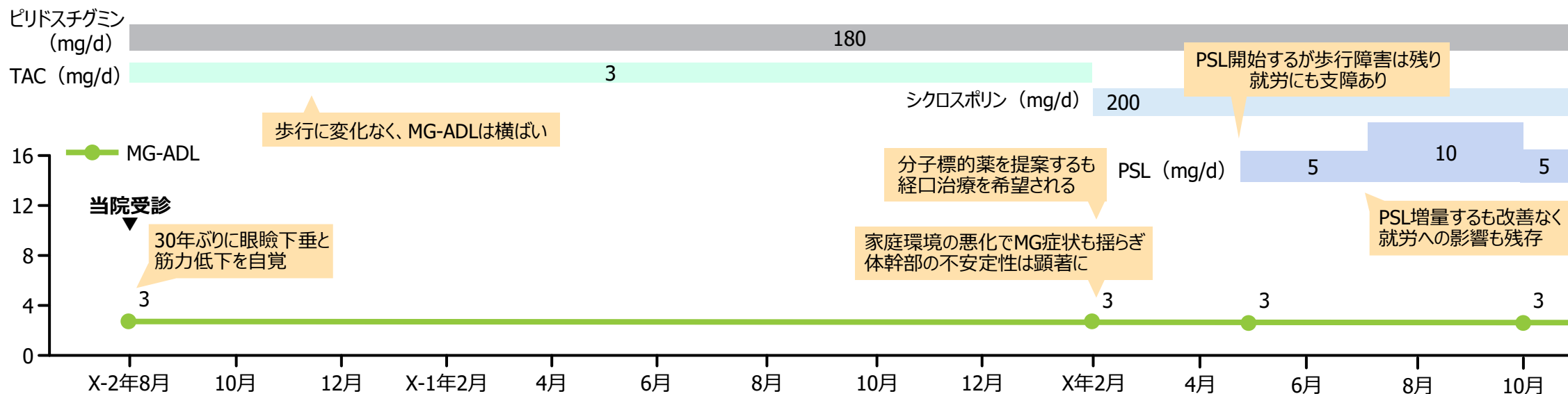
[発症時] 20歳代で産後に眼瞼下垂が出現した。近医で精査したが原因不明で自然軽快した。約30年後に眼瞼下垂と体幹腰部の筋力低下を自覚し、自覚的な悪化で当科紹介受診となった。
[初診時] 抗AChR抗体陽性MGと診断し、タクロリムスを開始した。
[初診～約3年後] 症状改善を得たが、数ヶ月後に家庭環境の悪化などで症状悪化した。タクロリムスからシクロスポリンに変更し、PSLを開始したが、歩行障害などは残存し、就労に支障をきたすようになった。

治療歴

PSL : 最大10mg/d、免疫抑制剤 : シクロスポリン200mg、タクロリムス3mg/d、抗コ剤 : ピリドスチグミン180mg

60代女性、約30年の完全寛解期間を経て再発・増悪し、入院を希望せず生活ニーズに合った治療を求めてリスティーゴ®を経口治療の次の一手として導入した例 (g-EOMG)

【症例提供・スライド監修】順天堂大学医学部附属順天堂医院 脳神経内科 星野泰延先生



現在の治療と状況

- 自宅での介護と就労のため入院は避けたい、経口治療での症状管理の希望があったが、シクロスポリンに切替えるも効果実感がなく、PSL投与でも歩行障害や易疲労感の改善はなかった。PSLのさらなる増量は患者が希望しなかった。

次の治療へ進む理由

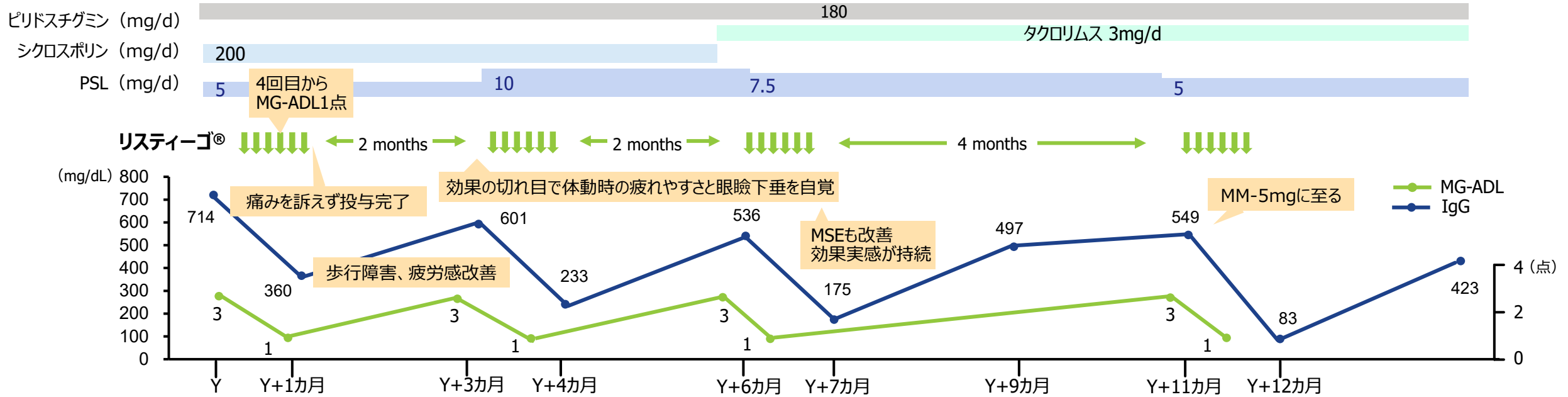
- 現状の生活に負担のない範囲で、既存の経口治療に加え、症状を軽減できる治療を追加する必要があった。
- 長期的なメンテナンス治療に進む前に現状の症状を立て直すことを目的として、導入負担の少ないFcRn製剤を選択肢とした。

新治療への期待

- 患者は「6週打てることが有効性に影響する」ことを期待した。
- 就労に影響をしていた「歩きづらさを改善したい」という希望があり、治療ゴールの達成を期待した。

60代女性、約30年の完全寛解期間を経て再発・増悪し、入院を希望せず生活ニーズに合った治療を求めてリスティーゴ®を経口治療の次の一手として導入した例 (g-EOMG)

【症例提供・スライド監修】順天堂大学医学部附属順天堂医院 脳神経内科 星野泰延先生



経過

- リスティーゴ®1サイクル目実施：
 - 投与前は歩行杖ありの状況であったが、投与4回目から歩行杖なしで20分歩行が可能となった。
 - 4回目にMG-ADLスコアは1点となりMSEに至り、疲労感も軽減していた。
- リスティーゴ®2サイクル目以降：
 - 症状を感じ始めたら次のサイクル治療を開始。2サイクル目まで2か月、3サイクル目以降は4か月以上無治療期間を延長できた。
 - 患者が希望した歩行障害の改善を含む良好な状態を保ちながら、経口治療のみでの症状コントロール期間を維持できている。
 - 現在4サイクル目を終了し経過を診ているが、今後はこの投与間隔を維持しながら、さらなるPSL減量も検討している。

有害事象

- 現在までに有害事象は認められなかった。

Take home message

- 症状の立て直しのための経口治療の次の一手としてリスティーゴ®を導入した結果、歩行障害や易疲労感が速やかに改善し、MM-5mgまで到達した症例を経験した。
- 当該患者においては、1サイクル6回投与というリスティーゴ®のレジメンが、次の治療ステップとして選択する後押しとなった。
- その結果、治療効果を維持したまま4か月間の無治療期間を確保できた。